

令和7年度 学校評価表(当初)				三原市立西小学校(校番5)			
a 学校教育目標		夢や目標の実現に向けて、 自ら学び ともに伸びようと行動する児童の育成		b 経営理念 ミッション・ビジョン			
				【ミッション】志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】「自ら学び ともに伸びようと行動する」という教育風土がある学校 ＜めざす学校像＞「安心安全な学校」「すべての児童に学びの居場所がある学校」「すべての児童に主体的な学びを実現する学校」 ＜めざす子供像＞「規律あるかかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子供」「ふるさとに愛情と誇りを抱く子供」 ＜めざす教職員像＞「児童を守り、育て、育む」という職責を自覚し、行動する教職員			

評価計画										自己評価				改善方策		学校関係者			
c 中期経営目標	e目標達成のための具体的方策(大枠)		f 評価項目	指標	和7年7 h 達成値 (参考)	目標値	10月	2月	i	j	k 結果と課題の分析	n		l 評 価		m			
							h 達成値	h 達成値	達成度	評価		改善方策		イ	ロ	ハ	コメント		
確かな学力	【主体的な学びを実現する授業づくりによる学力定着】		単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の学級平均値が指標に示す点を超える教科数(20教科) 【評価時期】(7月 12月)	平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)		70／70 教科					肯定的評価の全年平均割合								
	課題に対して根拠を伴う論理的な自分の考えをもち、互い意見を大切にし、自らの考えを高める  R80を核とした授業デザインを通して、各学年で身に付けるべき学力を確実に定着させる	標準学力調査の学年平均値が全国平均以上の教科数(16教科)【評価時期】(1月)	全国平均以上の教科数	16／16 教科															
		・「なぜだろう」と強く感じる「問い(めあて)」と、「問い(めあて)」に対する「答え(まとめ)」を設定した授業づくり【研究部】  ・「R80」を活用した「学びのゴール」から逆算した「めあて」を設定し、45分間でデザインした授業づくり  ・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】【生徒指導部】  ・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業づくり【研究部】  ・実生活や実社会の課題を解決するプロジェクト型学習の充実【研究部】	○児童質問紙よりアンケートによる調査 (あ)授業の内容がよく分かります。＊  (い)わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができています。＊ 【評価時期】(7月 12月)			(あ)85%  (い)85%													
		○教職員アンケートによる調査 (ア)根拠をもとに考えたことから自分の考えを表現する授業づくりを「下線を引く、三角ロジックなど」を活用して行った。 (イ)「なぜだろう」と強く感じる「問い(めあて)」と、「問い(めあて)」に対する「答え(まとめ)」を設定した授業づくりを行った。 (ウ)「全体でのシェアまでであるR80」を活用した「学びのゴール」から逆算した「めあて」を設定した45分間の授業づくりを行った。 (エ)学習規律の徹底し、「他者説明」「聞くことを大切にしたい指導」などを取り入れ、親和性のある学習集団づくりを行った。 (オ)ねらいを達成するために、授業の始めにデジタル教材を提示したり、「置き換える」「共有する」の視点でICT機器等を活用したりするなど授業づくりを行った。 【評価時期】(7月 12月)	5項目 肯定的評価の平均割合		90%														
豊かな心と親和性の高い集団	【規範意識の育成】		icheck「自己肯定感」「学級適応感」のクロス集計結果が全国平均以上の児童の割合 【評価時期】(6月 12月)	全国以上の児童の割合が80%以上の学級数		9／9 学級					児童質問紙肯定的評価の割合								
	児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる	・「西小きまり」に基づく積極的な生徒指導を日常的に実施【生徒指導部】  ・生活や学習の場で自己決定する場の設定【生徒指導部】【研究部】	○教職員アンケートによる調査 「全ての児童に学びの場がある。」 学びの場：所属学級、心の相談室、SSR、市ふれあい教室、フリースクール、リモート授業、保健室などの学びの場など 評価時期【7月、12月】	児童の割合100%	100%														
		児童に、他者とかかわり合う場面を与え、その中で、自己肯定感を高めさせるとともに、相手を大切にすると心と態度を身に付けさせる	・全ての児童に、学校内(学校外も含めて)に「学ぶの場」がある取組【生徒指導部】  ・全ての児童が、困った時に学校の中に相談できる人や場がある取組【生徒指導部】  ・「聞くことや「学び合い」を大切にしたい授業づくり【研究部】【生徒指導部】  ・ねらいをもった児童同士の交流の場がある学級活動の充実【生徒指導部】	(う)95% (え)100% (お)85% (か)85% (き)100% (く)85% (け)85% (こ)85%															
	いじめ事案やいじめにつながる事案を把握し、児童と保護者、学級の児童に対応する。【評価時期】(7月 12月)			100%															
	生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する		【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】 【生涯にわたって運動しようとする心身の育成につながる授業改善】		児童質問紙よりアンケートによる調査 (さ)体育の授業は楽しい  (し)運動することは楽しい＊  (す)おうちで決めた時刻に寝ている  【評価時期】(7月 12月)	肯定的評価の割合		(さ)90%  (し)90%  (す)80%											
			児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現しようとする心と体を育成させる	・生活リズムを整える取組の実施【保健安全部】 ・楽しく、運動量がある体育科の授業づくり【保健安全部】 ・自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業づくり【保健安全部】 ・児童同士が「見る」ことを大切にしたい体育科の授業づくり【保健安全部】 ・自己決定の場がある体育科の授業づくり【研究部】【保健安全部】															
働き方改革	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して、児童に向き合う時間数を確保するとともに、職員の健康を維持する。		○市の方針「勤務時間上限の目安時間『上限の目安時間及び特例的な扱い』」に記載されている内容を達成する。  上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】(8月末・1月末)	勤務時間外の在職時間 全教職員年間360時間以内、月45時間以内の割合	100%														